

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

毎週、木曜日に信越放送で放送される「フレバト」。ダウンタウンの浜田雅功さんが司会する楽しみにしている番組だ。俳句・生け

花・盛り付け・絵手紙・水彩画・消しゴム版画・料理などのジャンル別に、著名人や芸能人が挑戦。その内容により「才能アリ」・「凡人」・「才能ナシ」とラシク付け。更に「特待生」・「名人」・「永世名人」への挑戦が見どころだ。毎回、驚くのが出演者の才能の見事さだ。だが、その作品を査定する俳句の「夏井いつき」さん。教師時代に、仕事と家庭を両立させながら、唯一の趣味として独学で学んだのが俳句だと知った驚きは別格だった。評価のポイ

ントの解説、必要に応じて添削する。添削された作品の出来栄に毎回感心してしまう。どんな学びを積み重ねたのだろうか。「一読・十笑(じゅっしょ)う・百吸(ひゃっきゅう)う・千字・万歩」。新

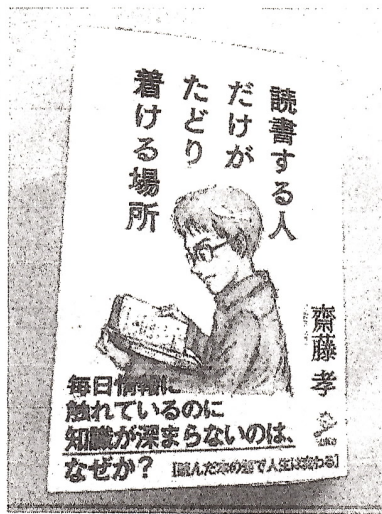
漢字を使って日記や手紙を千文字ぐらい書き、1万歩を目標に歩く事で認知症やメタボリック症候群の予防につながる」と日本医師会が高齢者に勧めている。

齋藤孝さんの著書「読書する人だけがたどり着ける場所」、著書発行部数が1千万部を超える齋藤孝さん。明治大学文学部教授で、クイズ番組出題者としても著名な文化人だ。第53回全国大学生生活協同組合連合会による学生生活実態調査で「読書時間ゼ

## 一読・十笑・百吸・千字・万歩は地域を元気にする取組だ

と、必ず同じ返事が返ってくる。「読む事は心掛け次第でできるが、書く事だけは無理だ」。どんなアドバイスができるのかと、楽しみを兼ねて書店に参考書探しに出掛ける。その中で見つけたのが「深い人」

と「浅い人」との違いは教養。知性は万人に開かれていると読書を勧める。今、本離れしている現実も確かだ。歳の積み重ねは、行動範囲はかりでなく、接する世界も限られてくるだろう。その中でも知識を持つほど広がる社会を手に入れるために「読書」とは、いつまでも友人であり続けたいと思わせた本でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



情報「ネットでもいいじゃん」と言う人ほど読んでほしい本だ